

ICT-BCPガイドライン見直しの全体像

2012年9月27日

ICT-BCPガイドライン見直しの全体像



● 既存のICT-BCPガイドラインはこれを参考にしている地方公共団体への影響も勘案し内容を大きくは修正しないこととし、初動、訓練に焦点を当てた補足資料を追加する方向で整備する。

I C T - B C P ガイドラインの改訂の方向性

基本的な考え方

最小限に取り組むべき事項として「初動を可能とするために必要となるアクション」(「事前対策」を含む)を切り出し、できるだけ具体化の事例を合わせて提示する。

「初動を可能とするために必要となるアクション」の訓練を繰返し行い、検証することで改善を積み重ねることを想定する。

その他の部分については 小規模団体が取り組みやすいことに配慮しつつ、既存の I C T - B C P ガイドラインの見直しを行う。

ICT - BCPガイドライン 見直しの進め方

「ICT-BCPガイドライン改訂 の方向性~『初動対応の支援』に焦 点をあてて~」に従い、業務継続計 画の初動版サンプルを具体化する。

既存のガイドラインは参考書として 位置づけ、「ICT・BCP検討N カ条」と初動を適用した場合の業務 継続計画(初動版)策定の解説を整 備する。(本資料の3,4,5ペー ジ)

訓練の実施や定着化に関する課題を整理し、また、実証実験の一環として実施する初動訓練の結果も踏まえ、訓練の定着化が図れる様に訓練事例紹介を整備する。

「既存のガイドライン自体の見直しについて」(本資料6ページ)に基づき、既存のガイドラインの内容を精査する。

ICT-BCPガイドライン 見直しの対象

<新規作成>

ICT - 美務継 BCP 検討 N力条 業務継

業務継続計画(初動版) 具体的サンプル

業務継続計画(初動版) の策定の解説

訓練事例紹介

<既存のガイドライン>

第1部

第2部

第3部

サ 基礎的対策計画(第1部版)

業務継続計画(全体版)

様式集

本編

初動対応に該当する要素の抽出



現行のガイドラインから、初動対応に該当する要素を抽出すると概ね以下のとおりとなる。



「ICT-BCP検討Nカ条」について



- 前頁の要素をもとに、首長がICT-BCPの必要性を直感的に理解でき、策定指示できるような「ICT-BCP 検討Nカ条」(初動対応を可能とするために検討すべき項目)をまとめる。
- 「ICT-BCP検討Nカ条」に盛り込むべき視点(例)
- 1. 被災シナリオの想定。
- 2. 初動業務の確定。
- 3. 初動業務に必要な情報資産(システム・データ)の洗い出し。
- 4. 情報資産(システム・データ)の被害想定。
- 5. 事前準備と代替手段の検討。
- 6. 訓練の企画・実施。
- 7. 初動版業務継続計画の策定・見直し。

業務継続計画(初動版)サンプルのイメージ



• 初動に焦点をあてて、より具体的なICT部門の業務継続計画のサンプルを新規 に作成し、提供する。

アウトプット目次構成(例)

ICT部門の業務継続計画(初動版) サンプル

- 1. 業務継続計画の趣旨・基本方針
 - (1)業務継続計画の趣旨
 - (2)基本方針
- 2 運用体制と役割
- 3. 被害想定
- 4. 重要システム
- 5.リソースの現状(脆弱性)と代替の有無
- 6.被害を受ける可能性と事前対策計画
- 7. 平常時の業務継続力の維持・向上の体制・計画
 - (1)運用体制
 - (2)訓練計画
- 8.緊急時対応・ 復旧計画
- (1)緊急時対応体制
- <u>(2)緊急時における行動計画</u>
- (3)参照文書リスト
- (4)緊急連絡リスト
- (5)被害チェックリスト
- 9. 資料

まとめるポイント

資料4「ICT部門における業務継続計画初動検討 被災パターン」を元に想定した被害を記載する。

初動の範囲とした業務範囲(災害直後の広報~ 情報システムの点検・再稼動)を重要業務として選定し、当該業務で活用又は有効と思われるシステム(ネットワークを含む。)を重要システムとする。

資料5「初動検討ワークシート」のB列を記載する。

「3.被災想定」のパターンに対し、「4.重要システム」の現在の災害対策状況から被害の有無を評価し、保全、代替の対策、そのために必要な事前対策事項を記載する。 資料5「初動検討ワークシートのD列を整理して記載する。

初動の範囲とした業務においてICT部門がとるべき行動計画を被災想定のパターンを考慮し、具体的に記載する。「6.被害を受ける可能性と事前対策計画」を前提に発災後の行動計画を記載する。

有事の際に利用するのは8章と9章になるため、末尾、又は 先頭に集約し、切り離し可能な状態にしておく(例では末尾 に設定)。

既存のガイドライン自体の見直しについて(たたき台)



- 既存のガイドラインの構成要素は大きくは修正しない。
 - 既存のガイドラインの構成要素は必要な検討事項であり、また、既存のガイドラインに従って現在ICT-BCPの策定を検討している自治体への混乱も考慮し、構成要素の大きな変更はしないこととする。
- ステップという考え方にとらわれない柔軟な利用を可能とする。
 - 各地方公共団体において、災害対応の準備は様々であることから、既存のガイドラインにある ステップという考え方にとらわれず、各地方公共団体の準備段階に応じて、柔軟に利用できる ようにする。
 - ICT-BCPの検討の進め方として、初動フェーズ(非常時優先業務の早期立ち上げ) 復 旧フェーズ (通常業務の復旧)の順番に拡充していくことの重要性を補足追記する。
- ICT-BCPガイドラインの位置付けについて検討する。
 - ICT-BCPと地域防災計画等との関係を明らかにすることができれば、メリットが大きいのではないか。
- その他
 - ICT技術の動向変化や東日本大震災の経験を踏まえ、初版策定当初の内容に修正の必要が認められる部分があれば、研究会に諮る等し、必要に応じた修正を行う。
 - 業務継続計画(初動版)の策定に伴い、「第1部ステップ6」=「初動の行動計画の立案」等の紛らわしい表現を修正する。